

相手を意識したコミュニケーションを目指すための「ことばドリル」の活用

千葉県千葉市立生浜東小学校 教諭 栗原 弘毅

小学校1年生 国語 ことばドリル

第16回「口に口を口して！」低学年児童は単語のみでのコミュニケーションが行いがちである。文の骨組みの形を知り、相手に自分の考えを正しく伝えるために必要な文章の組み立て方を学ぶ。

【授業デザイン】

1年国語「しらせたいことをかこう」(教育出版)

導入 普段の生活を振り返り、単語のみで自分の思いをつたえようとしていることがあることを想起する。

番組視聴(10分)

ことばドリル第16回「口に口を口して！」を視聴する。

ポイントを確認

- 一言だけでは言いたいことが正しく伝わらない。
- 口に、口を(修飾語)を使うと自分の言いたいことを正しく伝えることができる。

ワークシートを用いての実践

・番組ワークシートを用いて文章の組み立ての練習を行う。

ドリルゲームを用いての実践

・NHK for SchoolのことばドリルA、Bを用いて文章の組み立ての練習を行う。

学んだことを活かす(次時)

・「口に」「口を」の文章構成を用いて、友だちに伝えたいことを文章に表す。

〈児童の発言より〉

- 「口に口を口する」じゃなくて、「口に口する」「口を口する」とかのときもある。違う言い方をするときもある。
- ちゃんとと言わないと捨てられたりとか困っちゃうと思った。



【授業の概要】

1年生の児童は経験や語彙の少なさや、周囲の大人が気を利かせて意図を汲み取って行動することなどから、単語でのコミュニケーションを行い、成立してしまっていることが多々ある。番組の視聴を通して正しく文章を構成しなくては自らの意図が伝わらないことを学び、文章を書く際や日常会話の中でも正しく伝わるように言葉を使おうという意識をもつことができた。

【今回の実践における番組効果】

- 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
- 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。
- 問題意識を向上させ、深い思考へ導く。
- よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。

【ことばドリル番組活用のポイント】

○発達段階に合わせた興味を持続できる番組構成
まだ集中力の続かない低学年の児童の特性に合わせ、10分の番組の中を更にコーナーに分け、児童が集中して視聴し続けられるようになっている。

○番組 web サイト上のゲームの活用

視聴後にことばドリルゲームを行うことで、学習内容の定着を図った PC 室のコンピュータを使用することで、児童のペースに合わせての学習を行うことができた。

【成果と課題】

ワークシート、作文中の記述や、NHK for School サイト上のことばドリルを行った際の見取りから、文章の組み立てについて、児童が考えるきっかけとなったことが見て取れた。実践後の日常生活の中でも、単語のみの発言をしている友達に対し、「それじゃあちゃんと伝わらないよ。」と指摘している様子が見られた。また、NHK for School に興味を示し、家庭で番組を視聴したり、ことばドリルに挑戦したりと、家庭学習で自ら学びに向かう姿勢が育まれた児童もいた。日常生活の中にも意識の変化を見て取ることができた。